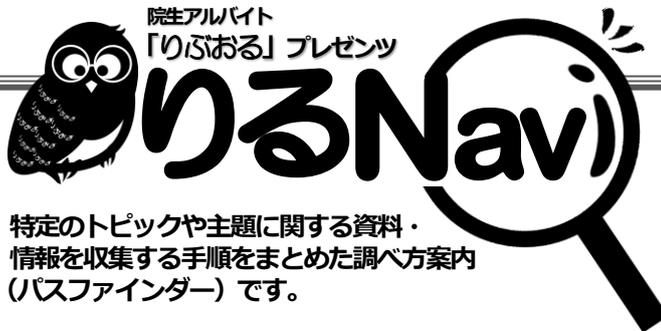


# 考古学

Archaeology



特定のトピックや主題に関する資料・  
情報を収集する手順をまとめた調べ方案内  
(パスファインダー)です。

りるNavi  
Rissho University  
Library Learning Navigation

りぶおる  
学生アルバイト「りぶたま(Librarianの卵)」  
から発展した院生アルバイトの名称。  
知の象徴である鳥(Owl)から派生して  
名付けました。知識や知恵を集結させ  
て生かしていく姿が、大学院生たちの  
精鋭さを表しています。

## 考古学とは

過去の人類の残した物質的遺物、すなわち遺跡・遺物を資料とし、これらによって人類の過去を研究する学問である。人類の過去の研究といっても、文献資料によって歴史事象を研究する文献史学と異なり、文化や生活内容などの研究に重点がおかれることはいうまでもない。遺跡・遺物は、時間的にも空間的にもきわめて広汎な範囲に及ぶものであり、時間的にもいくつか分類し整理することが必要であり、地域的にもエジプト考古学・東洋考古学・中国考古学・日本考古学などのように、その地域や国によって区別されることが便宜である。(「JapanKnowledge Lib」より引用)

## 分類 (NDC9版)

図書館の書架を調べる際は、次の分類を中心に探すとよい。

分類番号	分野
193.02	考古学 (聖書)
202.50	考古学 (歴史補助学)
210.025	考古学 (日本史) ※特定の地域に関するものは「日本地方区分」参照。 ※個々の遺跡、遺物に関するものは「時代区分」参照。

日本地方区分	
分類番号	分野
211	北海道地方
212	東北地方
213	関東地方
214	北陸地方
215	中部地方：東山・東海地方
216	近畿地方
217	中国地方
218	四国地方
219	九州地方

時代区分	
分類番号	分野
210.2～	原始 先史時代 旧石器時代 縄文時代 弥生時代 邪馬台国
210.3～	古代 大和時代 飛鳥時代 奈良時代 平安時代
210.4～	中世 鎌倉時代 南北朝時代 室町時代 戦国時代 安土桃山時代
210.5～	近世 江戸時代
210.6～	近代 明治時代 大正時代
210.7～	現代 昭和時代 (第二次世界大戦含む) 平成時代

## 辞典・事典

以下【 】内は立正大学図書館における請求記号と所在を示す。

- 『日本考古学用語辞典』改訂新版【210.025/Sa25 品川2F参考図書】 斎藤忠著, 学生社, 2004  
考古学の基礎的な用語のほかに服飾、調度、日用品などについての用語が掲載されている。起源や沿革が重視され、歴史的な追及は原文で取り入れられている。
- 『現代考古学事典』縮刷版【202.5/A 49 品川2F参考図書】 安斎正人編, 同成社, 2006  
現代考古学の理解に必要な用語と概念の100項目を解説している。
- 『東アジア考古学辞典』【220/N 86 品川2F参考図書】 西谷正編, 東京堂, 2007  
日本・中国をはじめ東アジア諸地域の基本となる諸項目2,350項目が収録されている。収録内容は、遺跡・遺物・用語・事項・人名など広範囲にわたり、収録項目は巻末の「分類項目一覧」から探すことができる。

## 入門書

- 『よくわかる考古学』【202.5/Ma76 品川 2F 学修支援 (史学) /品川 B1 図書】  
松藤和人, 門田誠一編著, ミネルヴァ書房, 2010  
旧石器時代～中世・近世まで時代を追って解説しているほか、考古学という学問についての目的や方法、社会との関わりまで、幅広く概説している。時代ごとにテーマやコラムを選定し、入門者にもわかりやすい表現に努めた考古学の入門書。
- 『はじめて学ぶ考古学』【202.5/Sa75 品川 2F 学修支援 (史学) /品川 B1 図書】  
佐々木憲一 [ほか] 著, 有斐閣, 2011  
考古学の学び方・考え方から、現在議論している諸問題まで、今生きている社会とのつながりを意識して学べる、新しい時代の考古学入門。世界考古学を視野に入れた考古学の基礎と、日本列島の人類史を解説。後半には、学びを深めたい人向けの読書案内も掲載されている。
- 『シリーズ「遺跡を学ぶ」』【210.025/Sh88/1～162 品川 B1 図書】 新泉社, 2004～2023  
日本列島を代表する遺跡や注目される遺跡の魅力を、カラー写真と工夫された図でわかりやすく伝える。1 遺跡編 冊で発掘の感動と学問的成果を簡潔に紹介。第 65 回毎日出版文化賞受賞。
- 『考古学基礎論：資料の見方・捉え方』【202.5/Ta64 品川 B1 図書】 竹岡俊樹著, 雄山閣, 2019  
新たな歴史観・文化論構築のために、もの [遺跡・遺構・遺物] を「見ること」「捉えること」とはどういう行為か。認知・認識論を基に、考古学資料の意味を読み解く方法が提示されている。

## 雑誌

- 『立正考古』【R-1/5 品川 B3 紀要 (新刊・目次は 3F 立正大学紀要コーナー)】 立正大学考古学研究会編  
立正大学考古学研究会が年 1 回発行する機関誌。所属する研究者による論文が掲載されている。
- 『月刊考古学ジャーナル』【210.05/13 品川 B3 雑誌 (新刊は 3F 開架雑誌コーナー)】  
ニュー・サイエンス社編  
戦後発展した考古学のすべてを網羅し、内容は論考、連載講座、随筆、トピックス、発掘報告、文献紹介、書評、博物館紹介など多岐にわたる。(月刊誌、毎月 30 日刊行、年 2 回増刊号あり)
- 『Museum』【705/24 品川 B3 雑誌 (新刊は 3F 開架雑誌コーナー)】 東京国立博物館編  
隔月 1 回、東京国立博物館から刊行される研究誌。考古学や歴史学の貴重な資料だけでなく、美術史や工芸史関係の資料も見ることができる。

## インターネット 学会サイト等

- 『日本考古学協会』 <https://archaeology.jp/>  
一般社団法人日本考古学協会のウェブサイト。機関紙『日本考古学』の発行状況、講演会や講座の情報、考古学会の諸問題とその取り組みなどについて掲載している。
- 『考古学通信』 <http://kouko.so-hot.jp/arcinfo/>  
考古学に関する最新ニュース、展示会、学会、文化財センター、求人などの情報を発信している。